

県内農業者ら研修

6次化販路開拓へ連携

初の見本市で商品PR

農産物の生産から加工、販売までを行う6次産業化に取り組む県内農業者らのネットワークづくりを支援するため、県などは8日、県庁で6次産業化実践者研修を実施した。新規参入者が増える中、ノウハウや人手不足を背景に流通ルートを確保できない点が課題になっており、販路開拓につなげてもらおうと今回初めて交流見本市も企画。参加者は地域で連携して6次化を進める必要性を確認した。

(岡田優子)

農業者や県内外の流通業者、金融関係者ら190人が参加。見本市に先立ち、

6次産業化実践アドバイザーを務めるファーマーズ・フォレスト(宇都宮市)の

成功のポイント」と強調。

加工や販売を委託する方法もあるとした上で「地域ネットワークを生かして、連携して取り組む仕組みをつくる必要がある。オール栃木で商品をいかに全国に発信していくかだ」と訴えた。

見本市では県内各地の26の個人・団体などがブースを並べた。詰め掛けた商品バイヤーらに独自に手掛けた菓子や飲料などを熱心に紹介したり、情報を交換したりした。

リンゴを使ったチョコをPRした渡辺りんご園(矢板市)の渡辺幸史代表は「商



交流見本市で6次産業化の商品を説明する農業者(右)ら＝8日午後、県庁

松本氏は商品化しても、流通に乗せるのが難しい点を挙げ「出口戦略が大事であり、経営改善という当初の思いを見失わないことが

品には自信がある。ただ営業まではなかなか手が回らない。県内で商品売り込む機会が設けられれば参加しやすい」と話した。

県農政課によると、県内の6次産業化事業者数は1240人・団体(2014年)。5年間で2割強増えた。

6次化実践者ら 商品展示し交流

栃木県など

【つちぎ】県、県農業振興公社、フードバレーとちぎ推進協議会は8日、宇都宮市で「6次産業化実践者研修・交流見本市」を開いた。生産者や商工業者など6次産業化商品の開発に取り組む関

係者約150人が集まり、講演や商品展示などを通して交流した。基調講演では6次産業化中央サポートセンター企画統括マネージャーの



6次産業化商品を囲んで開かれた交流見本市（8日、宇都宮市で）

天野良英氏が「目指せ商品開発・つかめ時代の流れ」のテーマで、さまざまなアイデアを商品化してきた体験を語った。失敗談も交えて「思いだけでは事業にはならない」と教訓を披露。おいしいのに売れないジャムを全国から集めて開いて好評だった「ジャム博」

などを通して「売れる仕掛けづくり」の大切さを説いた。

交流見本市では、㈱フアーマーズ・フォレスト代表取締役で栃木県6次産業化実践アドバイザーの松本謙氏が登壇。最近の6次産業化の動きを分析しながら「連携して地域を全国に売り込む仕掛けづくりが重要。6次産

業化のネットワークをつくる」と呼び掛けた。

県内で開発された6次産業化商品・農商工連携の展示PRコーナーには、26の事業者が出品。アドバイザーらのアドバイスを受けたり、試食しながら商談を交わしたりする姿が見られた。また、来場者による人気投票も行われた。